

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0672500436		
法人名	最上町		
事業所名	最上町認知症高齢者グループホーム		
所在地	最上郡最上町大字向町64-3		
自己評価作成日	平成 24年 7月 19日	開設年月日	平成 12年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院・老健・包括支援センター等の相談機関と併設している為、利用者・家族が安心して利用することができる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

事業所は、今年で開設12年が経過し、豊富な経験や知識を基に利用者本位のサービスの提供を行っている。また、現在に至る過程において、理念の見直しを図ったり、利用者が参加しやすいよう台所を一部改装する等、工夫を凝らし、その時々の利用者の状況、また、介護保険制度の変遷に臨機応変に対応し、現状に即したサービスの提供に努めている。また、事業所は最上町の病院、介護施設等、医療及び福祉施設が総合的に立ち並ぶ「ウエルネスプラザ」エリア内の一角に位置し、日頃から連携を密にし情報の共有を図ると共に、災害対策や重度化、終末期ケア等、多方面にわたり協力体制を構築しており、利用者や家族の安心に繋がっている。管理者及び職員は、常に利用者の目線に立って考え、利用者本位のサービスを追及しており、今後も、地域密着型事業所としての事業所の役割や活動が期待できる事業所である。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	行政書士協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 24年 8月 9日	評価結果決定日	平成 24年 9月 13日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>住み慣れた地域で安心した暮らしを継続できるよう、施設独自の理念をつくり、ホーム内に掲示している。毎朝、申し送り前に唱和し、職員間で意識の共有化を図っている。</p>	<p>理念の見直しの際には、あたたかみのある言葉で解り易い理念を心掛け、職員同士が意見を出し合いながら、地域密着型事業所としての理念を再考した。また、理念は玄関等に掲示する他、朝礼の際に唱和することで、理念の意識付けや職員間での共有に努め、理念の実践に繋げている。</p>		
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事には可能な限り参加するよう努めているものの交流は限られている。また、利用者の中に併設施設(ひだまりの家)から入られた方もいて、その方については、継続的交流が図れるよう援助にあたっている。</p>	<p>最上町の病院、介護施設等が立ち並ぶ「ウエルネスプラザ」エリアの一角に位置していることから、地域との交流が立地的に難しい状況ではある。しかし、地元のお祭り等、地域行事への参加、ボランティアの受入れ、また、隣接の介護施設と地域との交流行事に参加する等、工夫を凝らし、地域との繋がりを確保している。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>講習会等で認知症の方への支援の方法を地域の方々還元したいという考えがあるが、なかなか機会がとれない状況にある。</p>	/		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議での意見などは、早期に検討を行い、サービス向上に努めているものの、さらに、サービスの現状を公表して意見を聞く必要がある。</p>	<p>社会福祉協議会職員、包括職員、利用者及び家族代表、地域代表等の参加を得て開催されている。会議では日々の利用状況や外部評価等について報告する他、疑問や要望に対して真摯に対応している。今後は、より一層多様な意見を取り入れ事業所の運営に反映させるため、委員の人選について見直しを検討している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと、他の事業所との連絡会議等が月に一回開催され、その中で問題点があれば解決策を検討し、サービスの向上に努めている。	同エリアに町の福祉課や関係機関が集約されているので、連携が取り易い。その他、包括主催のサービス機関連絡調整会議やケアマネ会議等を通じて情報交換を行なっている。また、個別具体的な事例や困難事例については、その都度電話等で連携を図り、協働して課題の解決を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	日中は出入り口を開放し、常に見回りを行い、利用者の外出を見つけた場合は、スタッフがさりげなく声を掛けたり、一緒に付き添って外出するなどして、安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。	研修会を実施し身体拘束をしないケアについて学び、身体拘束の具体的な行為やその弊害について全職員に周知している。離設したがる利用者については否定せず、寄り添い、見守りを強化する等、拘束を行わないケアに努めている。また、今後、事業所独自のマニュアルの整備について検討している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者に対する虐待が問題であることを理解するために、そうした報道・研修会等あれば伝達するなどの機会を設けて防止の意識付けを行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用している方がおり、関係機関と連携をとり取り組んでいる。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は、利用者、家族が不安にならないように十分説明し、理解と同意を得ながら利用して頂いているが、ただ、退所に際しては、ここ最近トラブルがあり、利用者・家族と充分相談にのれる体制を築くことを考え進めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言動等から本人の意を察し、申し送り等で検討し運営に反映させている。また、運営推進会議に利用者代表が参加することで、自由に発言できる場を設けている。	面会時には意見や要望を表せる書類を用意する事で、積極的に引き出すと共に、家族と職員間のコミュニケーションを大切にし、雰囲気作りにも努め、意見を言い易い環境作りに配慮している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際あるいは日々の相談に応じ、スタッフの意見を聞き、運営に生かせるよう心がけようとしてきたが、不足してきた面もあり今後改善していかなければいけない。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、資格取得の支援・手当、定期昇給で、職員が向上心を持って働けるような環境を整えているものの、管理者として、働きやすい職場づくりにさらに努力していく必要がある。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は計画的に参加できるように促し、研修後は、職員会議・GH業務検討会議に於いて発表の場を設け、職員全体のものとしている。また、転入移動職員に対しては、三ヶ月間のOJTを設けている。	職員の経験年数や介護技術に沿った研修計画を作成し、隣接する老人保健施設と合同での研修会や外部研修へ職員を派遣している。研修内容は復命書を提出し、会議等で発表することで職員間で共有し、サービスの質の向上に努めている。尚、新任の職員に対しては、3ヶ月のOJTを行い、段階に応じたスキルアップを図る体制を整えている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上地区グループホーム連絡協議会にて、各施設が輪番制にて定期的に意見交換を実施している。	町の介護サービス事業所が一同に会するサービス機関連絡調整会議等で、定期的な情報交換を行っている他、最上地区グループホーム連絡協議会、また、山形県グループホーム連絡協議会にも所属しており、交換研修や事例検討等、他事業所との交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が、安心してグループホームに入所利用できるよう、本人に関わってきた事業所等から、入所直前にも関わってもらい、さらに、入所してからも、不安を抱えた利用者の方には引き続き関わって頂いており、安心を確保する為の関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をしっかり聞き、事前に施設を見学してもらったり、説明をどうして、少しでも信頼関係が築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際、利用申し込みは、老健が窓口となってきた。その際、家族に対しいろいろな情報提供を行うと共に、本人と家族に対しての適切なサービス、支援の見極めに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「人生の先輩である」ことを念頭におき、利用者個々の「出来ること」を活かせるように働きかけて、いつも和やかな雰囲気の中で過ごせるよう努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にしながら、本人を共に支えていけるよう努めてきたが、ご家族から早期に伝えてほしいという要望・苦情もだされたこともあり、家族とのコミュニケーションを図っていきたい。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族の理解協力を得ながら、馴染みの関係の方の面会等、出来る限り本人の意に沿った支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士馴染みの関係が出来ており、また、各自の役割分担も出来ており、お互いが支えあえるような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近、退所後の利用者・家族へのフォローが不足しているのではとの外部からの話もあり、職員教育も含め退所後のフォロー体制を強化していきたい。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にとって最良とは何かを考え、本人の意思を汲みながら、随時検討を重ねている。	家族や関係者からの情報を参考にすると共に、一部、センター方式アセスメントシート等も活用し、利用前の生活歴や環境等について把握している。また、日々のケアで寄り添い、会話の中から意向や要望について把握すると共に、意思表示が困難な利用者については、表情や仕草等から要望を汲み取り、本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の状況を家族等からの聞き取りを行い、入所後においても、それをもとに観察しながらも、ケアにつなげている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理強いをせずに行えることをしてもらい、一人ひとりが、自由に過ごせる時間を大切にしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際は、本人、家族から生活に対する意見を聞き、どのように支援していくかをスタッフ全員で話し合い、介護計画を立てている。	モニタリングは日々の実施状況を1か月毎にまとめ、業務検討会議でのカンファレンスにおいて、利用者の課題やケアのあり方について全職員が共有している。計画の見直しの際には、カンファレンスで得た職員の気づき、アイデア、また、事前に聴取した家族の意向や要望等、総合的に勘案し作成している。また、利用者の状態が変化した場合はその都度見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、毎日記入しており、特に注意すべき点については、ノートを活用し、スタッフ全員が目を通せるように工夫している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の老健・包括支援センター等の相談機関と連携することにより、QOLの向上に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院との連携が取れているため、適切な医療を速やかに受けることが出来ている。また、本人あるいは家族が希望する病院に受診することも可能である。	町の病院が隣接しているが、利用者の状態や家族の希望等を優先しかかりつけ医を選択できる。通院は、原則家族の付き添いをお願いしているが、状況に応じて通院介助も行っている。その際、支援経過を持参し、日頃の状況を説明すると共に、受診結果は口頭にて家族に報告している。	家族、医療関係者、事業所が統一された情報を正確に共有する事が、利用者の適切な医療支援に繋がる事から、利用者の日頃の生活状況、受診内容、家族への報告日等、利用者の受診における一連の過程を統一的に記録できる書式の整備を期待したい。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健の看護師が兼務体制になっているので、相談や医療行為の支援はスムーズに行えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>施設長が病院の院長でもあることから、利用者の状態を把握し、家族と相談しながら安心して医療サービスが受けられる体制が出来ている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りに関する指針に基づいて、本人及び家族に対して、説明しその考え等の確認を行っている。</p>	<p>看取り指針を作成し、早い段階から事業所としてできること、できないことについて説明している。重度化や終末期ケアに移行した場合は、家族や医療関係者、職員がその都度話し合い、方針の確認と段階的な合意形成を図り、隣接する病院や老人保健施設等とも連携を密にし情報の共有に努め、チームでの支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員の訓練は行っていないが、急変時には併設の病院にすぐに受信できる体制が出来ている。また、急変時の対応は、マニュアルにて徹底されている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>施設単独で防災設備の操作訓練やウエルネスプラザ全体での定期的な防災訓練を実施しており、消防所や地区自主防災会との連携を図っている。</p>	<p>地域の協力を得て、火災や地震発生を想定した避難訓練を行う他、召集訓練等実践的な訓練も行っている。また、隣接する病院や老人保健施設、町の福祉課等、「ウエルネスプラザ」エリア内において備蓄や電力の供給体制等、総合的な連携体制を構築しており、合同での避難訓練には地区防災会の参加も得て定期的に行い、有事の際に備えている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議等で、日々の関わり方を職員全体で意思統一し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応を徹底している。	日頃から会議等で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけについて職員に周知を図っている。特に入浴や排泄の際には、羞恥心に配慮し、さりげない声かけを行なっている。また、管理者は接遇についての重要性を認識しており、今後は、事業所独自のマニュアルの整備も検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、職員が決めたことを強要するのではなく、いろいろな選択肢を提案し。自分で決められる場面を作っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、一人ひとり体調に合わせて、本人の意思を尊重し、個別性のある支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は利用者が自由に選ぶことができ、日ごろからおしゃれを自由に楽しむことが出来るように、支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の意向と嗜好を配慮したものをメニューにし、施設中庭で自分たちで栽培し収穫した食材を使っている。また、配膳、下膳、後片付けを一緒に行い、利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。	食事は利用者の希望を取り入れ、畑で収穫した野菜や地域の方から差し入れられた食材等、地元の旬な食材を利用しながら、3食ともキッチンで調理し、提供している。また、時には寿司の出前や行事食等も取り入れ、食事が楽しみになるよう心掛けている。尚、食事の下ごしらえや配膳、下膳を一緒に行ない、役割を担ってもらうことで、利用者の自信や活力に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や嗜好に配慮し、栄養が偏らないように、肉、魚、野菜をバランスよく摂取できるように工夫している。また、水分補給心がけ、お茶や牛乳を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、利用者個々の力に合わせて声掛け、見守り、全介助にて歯磨き、口腔支援を行い口腔内の清潔を保てるよう支援を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレ誘導を行い、本人が気持ちよく排泄出来るように支援している。	利用者毎の排泄チェック表を活用することで排泄リズムを把握し、適切な声かけを行い、出来る限りトイレでの排泄支援を心掛けている。下剤使用により排便コントロールが必要な利用者についてはケアプランに位置づけ、目標設定とモニタリングにより細やかな排泄支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況の確認を行い、体操や食物繊維の多い食べ物、手作りヨーグルトを提供して便秘予防に努めている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者からその日の希望を確認し、個々のペースを尊重した入浴を行っている。また、入浴を嫌がる利用者に対しては、仲の良い利用者と一緒に入浴してもらう等の工夫も行っている。	利用者の希望や状態に応じて臨機応変に対応を図りながら少なくとも週3回程度は入浴の機会を確保し、清潔保持に努めている。また、希望する利用者には隣接する施設の大浴場での入浴機会も確保し、入浴を楽しむことができるよう支援している。尚、管理者は、今後利用者が身体機能が低下しても安全な入浴に対応できるよう、手すりや滑り止めの工夫等、今後の課題として認識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。一人一人の体調や希望を考慮し、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が内容を理解できるように、薬剤情報ファイルを作成している。服薬時には、本人に手渡し、確実に服薬できているか、あるいは介助にて服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり出来ることを考慮し、家庭や畑仕事などで力を発揮できる場面を作り、感謝の言葉を伝えるようにしている。外出、外食、地域行事への参加を利用者と相談しながら実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その季節ごとに季節の移ろいを感じられるように、本人の体調や希望を考慮し、家族あるいは運営推進委員の協力を得ながら、買い物やドライブを兼ねて外出する機会を出来る限り取り入れている。	年間計画を作成し、利用者の希望や状況を勘案し、季節に応じた花見や外食等ドライブに出掛けている。また、畑の収穫や散歩、近所のスーパーへ食材の買い出し、同エリアの建物内にある喫茶室へのお茶のみ等、普段から戸外で過ごす機会を確保し、利用者の気分転換を図っている。尚、家族の協力を得て、お墓参り等、個別の希望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者に関しては、家族の協力を得て、少額を手元に置いていつでも使えるように支援している。また、自己管理できない利用者に関しては、施設で管理し、その都度本人あるいは家族の合意を得ながらお金を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。年賀状は毎年出す支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居住空間の装飾はその季節に合わせた装飾を行っており、共用空間に清潔に個々が気持ちよく使用できるように工夫している。	リビングは広く開放感があり、利用者の写真や季節の飾りつけ、台所の調理の音や匂い等が家庭的な雰囲気を出している。特にキッチンには、利用者が調理の過程に参加し易いよう、一部改装する等、利用者の目線に立った共用空間づくりを行っている。また、温湿度も管理し快適に保っており、利用者はテレビの前のソファや畳スペース、廊下の一角に設置された憩いの場等を利用し、思いおもいの場所でくつろぐことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別にあるいは気の合う仲間、あるいは楽しく又は静かに、共用できる空間づくりを工夫している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具等、利用者が自宅より持ち込んだ馴染みの物を、生活スタイルに合わせて用意し、利用者のより良い居心地作りに配慮している。	利用者の希望等に応じて畳部屋にも対応している。また、家庭との環境のギャップを感じる事がないよう利用者それぞれの馴染みの物を持ち込んでもらい、利用者が安心して居心地良く過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、寝室、廊下、トイレ等に手すりや、廊下のところどころに椅子を配置して休めるようにする。寝具も布団又は、ベットにて一人ひとりの力に合わせた安全確保と自立への配慮に努めている。			